

1. 活動のテーマ

<テーマ>

動き 0歳児から5歳児
～環境構成を通して引き出す操作活動から移動運動への発達の連続性と空間認知能力の向上～

<テーマの設定理由>

床に散らしたとげとげブロックや、透明な組み立てブロックで作った塔を使い、またぐ・避ける・走るといった多様な動きを引き出すことをねらいとして設定した。ブロックを組み立てる過程では、指先を使いながら形を考える姿が見られ、空間認識や集中力につながっている。また、床に配置されたブロックを意識しながら体を動かすことで、足の運び方や体のバランスを調整する力、周囲を見て動く力が育つと考えた。

2. 活動スケジュール

1. 活動の導入

- ・床にとげとげブロックを散らし、透明な組み立てブロックを用意。
- ・保育者がブロックを繋げて塔を作り、またいで避けて進む様子を見せながら遊び方を伝えた。

2. 子どもたちの活動

- ・子どもたちはブロックを繋げて塔のように積み上げたり、床に置かれたブロックの間を走ったり、またいだりして遊んだ。
- ・自分で進む道を選びながら、繰り返し体を動かす姿が見られた。

3. 活動のふりかえり

- ・リーダー会議、職員会議で子どもの動きや関わりについて共有し、活動を振り返り。主に6月から12月に定期的に活動を各クラス展開

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

環境・素材の設定

- ・とげとげブロックは間隔をあけて配置し、転倒しにくいよう配慮した。
- ・透明な組み立てブロックは自由に組み立てられるよう、数や形を十分に用意した。
- ・保育者は周囲から全体を見守り、必要に応じて声をかけ援助できるようにした。

活動中の子どもたちの姿

- ・ブロックを両手でしっかり持ち、重ねたり繋げたりしながら塔を作る姿が見られた。
- ・床のブロックを見て「ここはまたぐ」「こっちはよける」と、足を高く上げたり体をひねったりしながら進んでいた。
- ・友だちの動きを見て真似をし、同じコースを繰り返し走る姿もあった。
- ・走る速さを調整しながら、ぶつからないよう周囲を意識して動く姿が見られた。



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- 組み立てる遊びと体を動かす遊びを組み合わせることで、静と動の切り替えが自然に生まれていた。
- またぐ、避けるといった動きの中で、子ども自身が足の高さや体の向きを考えて動いており、運動機能の育ちが感じられた。
- ブロックの配置を少し変えるだけで遊び方が広がり、子どもたちの「やってみたい」という気持ちが高まっていた。
- 今後はコースを工夫し、高さに変化をつけることで、さらに多様な動きを引き出していきたい。